

ペーター (プリマ)
ヤブロンスキ
清水和音 (セコンダ)
ピアノの
第九
交響曲

ベートーヴェン＝リスト

二台ピアノによる歓喜の旋律

フィリアホール

横浜市青葉区民文化センター

PHILLIA HALL

〒227-8555 横浜市青葉区青葉台2-1-1 青葉台東急スクエア South-1 本館5階

3.13 2026
[金]

S¥9,000 A¥7,000

ぴあ先着先行発売日

2025年11月15日 11:00

各プレイガイドチケット発売日

2025年11月21日 10:00

19:30 開演 19:00 開場

約70分/休憩なし

ベートーヴェン○交響曲 第9番二短調 Op. 125
(リスト編曲による2台ピアノ版)

Ludwig van Beethoven=Franz Liszt:
Symphony No. 9 in D minor, Op. 125 Transcription for Two Pianos

[プレイガイド]

チケットぴあ t.pia.jp [Pコード: 313-300]

ローソンチケット l-tike.com [Lコード: 36273]

プロアルテムジケ www.proarte.jp

電子チケット プロアルテケット

teket.jp/98/60195



主催: プロアルテムジケ/PROMAX

お問合せ: プロアルテムジケ ☎ 03(3943)6677

■曲目・出演者・料金・発売日等をやむを得ず変更させていただく場合があります。

■未就学児の入場はお断りいたします。■青葉台東急スクエアの駐車場無料サービスはありません。■車椅子席をご希望の方は、チケット申込の際にお知らせください。

清水 和音
Kazune Shimizu

完璧なまでの高い技巧と美しい弱音、豊かな音楽性を兼ね備えたピアニスト。ジュネーヴ音楽院にて、ルイ・ヒルトブラン氏に師事。1981年、弱冠20歳で、パリのロン＝ティボー国際コンクール・ピアノ部門優勝、あわせてリサイタル賞を受賞した。これまでに、国内外の数々の著名オーケストラ・指揮者と共に演奏し、広く活躍している。室内楽の分野でも活躍し、共演者から厚い信頼を得ている。1995年秋から2年にわたって行われた、ベートーヴェンのピアノ・ソナタ全32曲演奏会は、その完成度を新聞紙上で高く評価され、ライヴ録音がリリースされた。これまでにソニーミュージックやオクタヴィア・レコードなどから多数のCDをリリースし、各誌で絶賛された。2024年10月には『清水和音の芸術』と銘打たれ、そのベートーヴェンピアノ・ソナタ全集、ソニーミュージック時代、RCA時代の全てのCDが再リリースされている。

2011年には、デビュー30周年を記念して、ラフマニノフのピアノ協奏曲第1番～第4番とパガニーニの主題による狂詩曲の全5曲を一度に演奏するという快挙を成し遂げた。2014年から2018年の5年間では年2回のリサイタル・シリーズ「清水和音ピアノ主義」を開催。幅広いレパートリーで聴衆を魅了した。デビュー35周年を迎えた2016年5月には、ブルームスのピアノ協奏曲第1番及び第2番を熱演。同年4月からは、年6回の室内楽シリーズ「芸劇プランチコンサート」を開始。デビュー40周年となった2021年秋には「清水和音ピアノの祭典」と題し、ソロから室内楽まで4時間を超えるプログラムで大きな存在感を示した。毎年春に開催している「三大ピアノ協奏曲の饗宴」では、ベートーヴェン「皇帝」、チャイコフスキイ第1番そしてラフマニノフ第2番の3曲を一気に披露するなど、精力的な活動を続けている。桐朋学園大学・大学院教授。

ペーター・ヤブロンスキ
清水和音
ピアノの
第九響
ベートーヴェンリリスト
二台ピアノによる歓喜の旋律
フィリアホール
横浜市青葉区民文化センター

ペーター・ヤブロンスキ

Peter Jablonski

グラモフォン誌に「成熟した想像力豊かな芸術性の真っただ中にいるピアニスト」と評されるヤブロンスキイは、数々の受賞歴を誇るスウェーデンのピアニスト。オンディーヌよりリリースされたロナルド・スティーブンソンのピアノ作品集は批評家から絶賛され2025年スウェーデン・グラミー賞に輝いた。

2025/26年シーズンのハイライトは、日本と韓国でのリサイタル・ツアー、ポーランド国立放送交響楽団(NOSPR)およびルカシュ・ボロヴィチ指揮によるアンドレ・チャイコフスキイ「ピアノ協奏曲」のポーランド初演、ヴィクトリア・ボリソフ=オラス作曲の新作協奏曲の世界初演。さらにA.チャイコフスキイのピアノ協奏曲全集の新譜発売が含まれる。

17歳でアーバードとアシュケナージに見出されデッカと契約し、ベルリンドイツ響、フランス国立管、ロイヤルフィル、N響、フィラデルフィア管、ロサンゼルスフィルなど、世界の主要オーケストラや指揮者(アシュケナージ、ネルソンス、サロネンほか)と共に演奏してきた。ウィーンのムジークフェライン、東京のサントリーホール、アムステルダムのコンセルトヘボウなど、世界有数のホールにも出演している。ベートーヴェン、ラフマニノフなどの主要作品に加え、シマノフスキ、ステンハンマーなど幅広いレパートリーを持ち、現代作曲家ルトスワフスキ、ペルトらと協働。キラーの《ピアノ協奏曲》初演でオルフェウス賞を受賞しているほか、ショスタコーヴィチ協奏曲ほかエジソン賞、シャミナード作品でグラモフォン賞を受賞。さらに、文化功労によりスウェーデン国王からリテリス・エト・アルティバス勲章を授与され、2022年には王立スウェーデン音楽アカデミー会員に選出。シマノフスキ作品の国際アンバサダーとしても活動し、2026～2028年にかけてオンディーヌよりピアノ作品全集を録音・発売予定である。